

学校リスクマネジメント推進機構 会員校インタビュー

— 学校法人 神奈川聖心の布教姉妹会 —

— 聖園女学院中学・高等学校 —

聖園女子学院中学・高等学校（清水ますみ校長）は、生徒や保護者等、学校関係者の生命・身体・財産等の保護の重要性に鑑み、当機構の会員校として学院全体で積極的にリスクマネジメント・危機管理に取り組んでいる。

同学院は1920年に創立された女子修道会聖心の布教姉妹会を母体として、1946年に旧制高等女学校として設立された。その後 1948年、学制改革により聖園女学院高等学校に名称を変更し、聖園女学院中学校を併設して現在に至っている。

同学院ではカトリック精神に根ざした世界観、人生観をもち、人を愛し、自分も生きる喜びを感じる人間教育を行い、社会に貢献する女性の育成を目的としている。特に緑豊かな丘陵地に野鳥の声が響くキャンパスは、生徒が教員にいつでも相談できる家庭的な雰囲気の中、充実した施設、設備とともに生徒の心身の成長を助けている。

今回、このような聖園女学院で会員校インタビューを実施したのでその様子をお届けする。

※インタビュアー 学校リスクマネジメント推進機構代表 宮下賢路



～ インタビュー開始 ～

宮下 : 学校はたくさんの子どもを預かった中で教育を実施している非常に公共性の高い場所ですが、学校の危機管理を当機構の会員として進めることのメリットについて、入会前との違いを教えてください。

清水校長 : かねてより新型インフルエンザ、金融危機、緊急地震対策、保護者のニーズを知り、より良い信頼関係を築いていく等、総合的に危機管理・リスクマネジメントを見直す時機が来ていると感じておりました。このような時機に会員校として入会させていただきましたので、日常の中で迅速に専門機関に相談が可能になり、大変助けられておりますし、責任者として責務を果たす上で気持ちが楽になりました。



また、万が一、何かの問題が発生した場合でも、保護者への説明がし易くなると思います。それは、学校が示した危機管理上の方向性が専門機関からのたくさんの情報を考慮した上での決定であった場合は保護者も安心すると思うからです。

そして、学校としても十分な情報収集ができるため、説明責任を果たす上でも非常に効果的だと思います。

小酒井教頭 : それと、入会したことで教職員が安心していますね。

すぐに機構のスタッフが学校に来てくださるところも大変心強く感じておりますし、問題に対する現状把握の精度も高まりました。



今までは漠然としたイメージの中で、対応しておりましたがその精度が高まったということ。また、管理職側から示されるアドバイスが広い情報のもとで判断されていると考えられることは、教職員が安心して個人レベルの悩みを上司に相談でき、大きな安心感を一般職員に与えられると思います。それは保護者にも納得のいく見解となることでしょう。

現代のように情報過多の中でどのような選択が私共のようなミッションスクール校にとって大切かを考えながら、多くのアドバイスを機構から頂きたいと願っています。若かったころ、担任として相談するべき事柄を抱えて、悩んだこともありました。

宮下 : 私共は教職員の方々が安心して職務を全うできるために、今度も全力でサポートをしていきたいと思っております。
それでは最後に当機構に期待するサービスについてお伺いいたします。

清水校長 : 客観的に色々と改善点等を直接指摘していただけるとありがたいと思います。

宮下 : 我々が専門的なノウハウを投入することで、学校がリスク低減や軽減、また、回避等を図り、同時に皆様の作業負担を軽減できるよう、ご協力をさせて頂きたいと思います。
本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

学校法人神奈川聖心の布教姉妹会

◎聖園女学院のホームページはこちら <http://www.misono.jp/>

お問い合わせ先 学校リスクマネジメント推進機構

東京都中央区銀座6-10-16 パレ銀座ビル

電話03-5537-2257

<http://www.relief-point.co.jp/>